

輝いている人

1人でも多くの人に、
スポーツの出会いと感動を。



インカレ(大学3年)では三段跳びで入賞するなど、高齢者の運動を指導するなど、競技者としても輝かしい実績をもつ赤木里美さん。今は、子供たちに体を動かすことの楽しさを教えたり、高齢者の運動を指導するなど、利用者のニーズに応じた運動プログラムで、スポーツ指導者として活躍している。

NPO法人スポーツインストラクター派遣グループを設立した

赤木里美さん(刑部)

スポーツ指導者の能力を生かし、地域の健康づくりのニーズに応えようと、特定非営利活動(NPO)法人スポーツインストラクター派遣グループ「team AIR (チームエア)」を設立。今年から本格的に活動を始めたのが赤木里美さんだ。

スポーツの楽しさを知ったのは中学生のとき、「仲の良い友達と陸上部に入部したんです。身長が高かったので、走り高跳びをしていました」と少し照れくさそうに振り返る。「高校時代、競技としてのスポーツももちろん必要ですが、スポーツの底辺を広げることも必要だと感じました」と、スポーツ指導者の必要性を熱く語る。

大学では、生涯スポーツの指導者養成コースを専攻した。しかし、卒業しても活動の機会が少ないことを実感。山梨県の大学に通いながら、東京でスポーツマネージメントの勉強もした。

「今はまだ、スポーツ指導者の位置付けが不明確なんです。それで、もつと指導者の知識や経験を有効に活用できないか、もつと地域で活動の場をつくることはできないかと考えました。私たちの活動を通して、1人でも多くの人がスポーツをする機会に恵まれたらいいなと思います」と話し、今後の活動について「スポーツ指導者と地域住民をつなぐ存在となるように、頑張っていきたいです」と意欲を見せた。

今は、運動指導をする傍ら、時間があれば活動を理解してもらうため、病院や福祉施設などにも足を運ぶ忙しい毎日。「より目的に応じた運動を処方できるように日々勉強しています。自分の時間ができたら、競技者として自分のトレーニングをしますね。やっぱりスポーツが好きですから」とすがすがしい笑顔を見せた。

PHOTO

100歳おめでとうございます

中川志計代さん満百歳

10月15日(土)、中川志計代さん(赤浜)が17日(月)に満百歳を迎えられるのを祝い、市や県から記念品が贈られました。中川さんは20歳で結婚。婦人会の活動や婦人団体の役員を務めるなど、地域のために積極的に活動をされていました。また、米寿を迎える頃まで、好きな詩吟を自宅で教えていました。長生きの秘けつは、食べ物の好き嫌いをせず、いつも前向きで若い気持ちをもち続けること。週2回のデイサービスに行くのを楽しみにしています。

まちの話題



家族に囲まれ百歳を祝ってもらった中川志計代さん

清掃活動に汗

清音ふるさとふれあい広場

10月16日(日)、清音ふるさとふれあい広場で、美化・奉仕活動が行われました。参加したのは約400人。日頃公園を利用している各種団体の関係者や、清音地区の住民が声をかけ合い参加しました。軍手やかまを手にした参加者たちは、思い思いに公園内に散らばり、草取りなどの清掃活動に汗を流しました。この日作業に参加した三好美智子さん(清音柿木)は「あらためて公園を大切に利用しようと思いました。これからもこの活動を続けて行きたいです」と話していました。



いつも利用している清音ふるさとふれあい広場の清掃作業をする子供たち

温かいもてなしに舌鼓

吉備路大鍋を囲む会

10月23日(日)、吉備路もてなしの館山手で、地元でとれた野菜を使って、吉備路を訪れる観光客をもてなそうと、大鍋を囲む会が開催されました。この日、ボランティアらが作った豚汁は1500人分。備中国分寺などを訪れた観光客らは次々に、豚汁を求める列に並んでいました。また、この日は、この会場が国体のデモンストレーション競技として開催された、ウォーキングのゴール地点にもなり、ゴールした選手たちも、温かいもてなしに舌鼓を打っていました。



地元でとれた野菜で作られた豚汁を、おいしそうに口に運ぶ観光客